「学生寮」設置状況調査
国公私立大で大きな差！

公立大の学生寮設置率は 3 割以下で、この 8 年間でほぼ変わらず

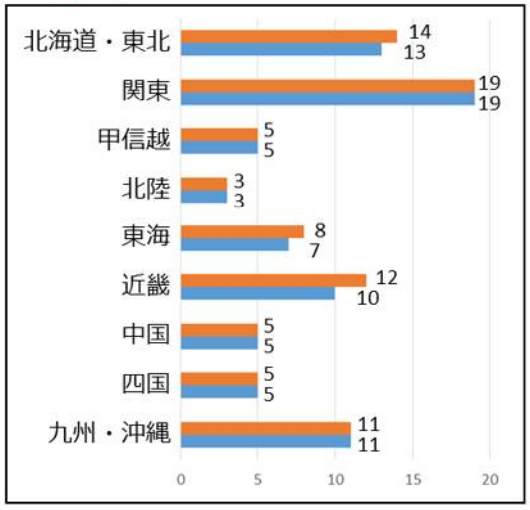
旺文社 教育情報センター 28 年 12 月

旺文社の進学情報誌 螢雪時代 8 月臨時増刊「全国 大学内容案内号」では、全国の国公私立すべての大学の情報（学部・学科の内容、キャンパス所在地、学生数、入試科目・配点、卒業後の進路など）を掲載。種々のデータ・情報の中には、「学生寮の有無」という項目も含まれている。

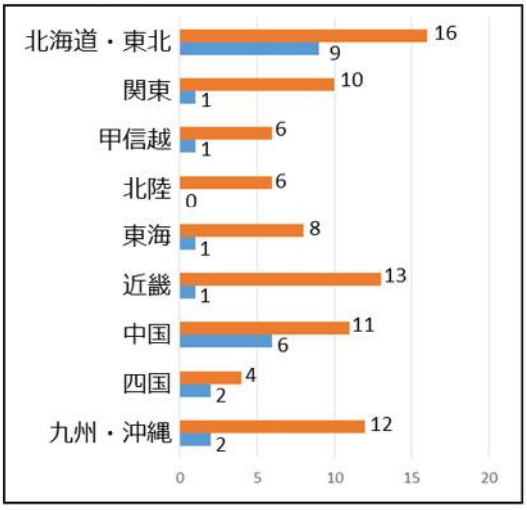
今回、旺文社教育情報センターでは、この中から「学生寮・あり」となっている大学個々の「学生寮」の詳細を大学 HP で調査。エリアごと、国公私立大学別に学生寮の数を整理し、グラフ化した。

寮設置の大学数（上段は大学数/下段は学生寮のある大学数）

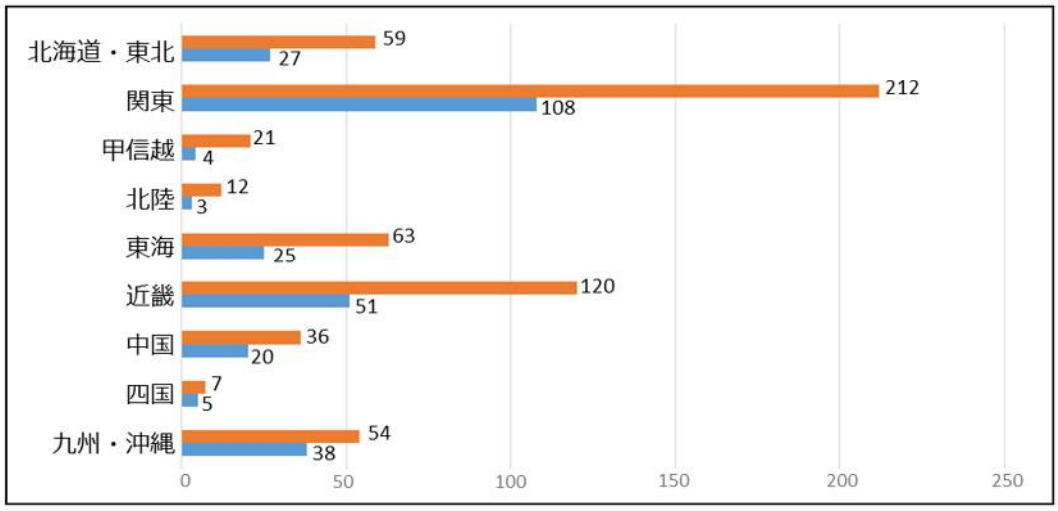
▼《国立》



▼《公立》



▼《私立》



※数値は、各大学がアンケートに回答していただいている（螢雪時代8月臨時増刊にて掲載）内容に基づいている。

(c)2016 旺文社 教育情報センター

全エリアを見てみると、

●国立大学では学生寮を設置しているところがほとんど。

●公立大学では学生寮の設置が少ない。（北陸エリアでは「ゼロ」）

●私立大学では、「北海道・東北」「甲信越」「北陸」「東海」「近畿」で学生寮がある大学が50%以下。

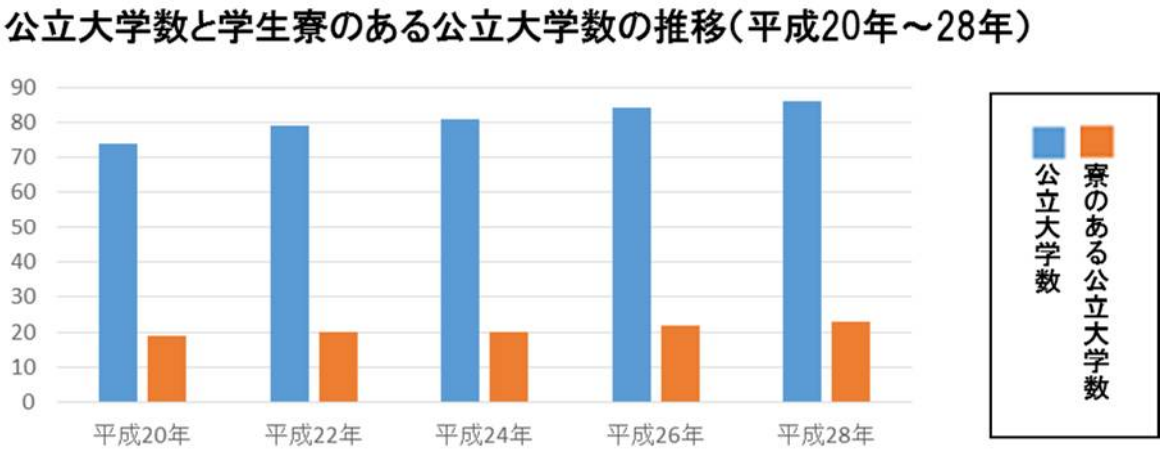
ということが判明した。

「公立大学では学生寮の設置が少ない」ということについては、公立大学が所謂“地域密着型”であり、大学を支える県や市に貢献することを一義としている点が影響していると考えられる。

入学金についても、公立大学では「県内からの入学者」の方を低額に設定しているところも多く、県内の受験生を、より多く集めようとする姿勢も見られる。大学としても「学生寮を設置してまでも、県外からの入学者を集めることは考えづらい」「県外からの受験生が、どの程度入学してくれるか読めない」という状況から、学生寮の設置にまで至らないのであろう。

■公立大学の学生寮は、平成 20 年と比しても「微増」

下のグラフは、平成 20 年から 2 年刻みで全国の「公立大学数」（青）と「学生寮のある公立大学数」（オレンジ）を示したもの。



各年の「寮のある公立大学」の（全公立大学での）設置率は、平成 20 年：25.7%、22 年：25.3%、24 年：24.7%、26 年：26.2%、28 年：26.7%。この 8 年間で 1 ポイント UP にしかなっていない。

(c)2016 旺文社 教育情報センター

同様の設置率を私立大学でみると、平成 20 年（約 42%）から 28 年（約 50%）では 8 ポイント UP である。大学数の違い（私立大学は公立大学より多い）ことを考えると、公立大学での設置率の伸びの鈍さが際立っている。

なお、ここで調査した学生寮には、次のようなものが含まれている。
・大学が施工主となり管理を行っている学生寮。（純然たる学生寮）
・大学が民間の施設をまるごと借り上げて運用しているもの。
・大学が民間企業と提携し、「○○大学・学生専用寮」として設けているもの。（当該の大学に所属する学生のみを入居対象とし、他大学の学生や一般人は入居できない）

大学のなかには、民間企業（民間の学生マンション運営会社）と提携し、その学生会館や学生マンションを「一人暮らしのための住まい」として大学 HP で掲載しているケースもあるが、さまざまな大学・短大・専門学校の学生を入居対象にしているものがほとんどなので、今回の調査からは除外した。

また、ここで表した学生寮は「入学者（学部 1 年生）を入居対象」にしているもののみで、「2 年生以上しか入居できない（新入生は入居できない）」ものは含んでいない。

■「学生寮」のメリットと、今後の期待

学生寮のメリットを、入居する学生の立場で考えてみると、次の点が挙げられる。
○寮費が安いので生活費の軽減につながる。
○規則正しい生活が送れそう。
○大学キャンパス内、あるいは近隣に設置されているので通学に便利。（実習や研究で帰るのが夜遅くなっても安心。キャンパスが離れていても送迎バスで通える）
○同じ大学、学部に通う先輩や同期がいるので、何かと相談や交流ができる。
○セキュリティの面で（街中での下宿より）安心感がある。

都心、郊外に限らず、昨今は事件や事故に巻き込まれるケースが少なくないが、「通学するキャンパスに近い」「セキュリティがしっかりしている」などは、学生や、学生を送り出す保護者の方にとっても、安心できるポイントだ。
上記のメリット以外にも、「インターネット利用環境」も整っている学生寮が多く、今や整っていて当たり前になりつつあるようだ。

(c)2016 旺文社 教育情報センター

さらに、公立の国際教養大学や、私立の立命館アジア太平洋大学、国際基督教大学など国際系統・外国語系統の学部に主軸を置く大学だけでなく、早稲田大学（国際学生寮 WISH）、筑波大学（Global Village）、京都精華大学（国際学生寮）など、新たな外国人留学生混住型の学生寮設置も目立つようになってきた。

慶應義塾大学では、同大学初の留学生・日本人学生混住ユニット型の「日吉国際学生寮（仮称）」が来年 3 月に開設。高知県立大学の「さくら寮」も外国人留学生との混住型・国際寮として来年 3 月に完成だ。

また、来年新設で運用開始する電気通信大学の「UEC Port 学生宿舎」や青山学院大学の「国際学生寮（AGU I - HOUSE）」は、いずれも民間企業とのコラボレーションで生まれた施設。

グローバルキャンパスを標榜し、日本人学生の外国語スキルアップや留学制度の活性化を図るのであれば、外国人留学生を多く受け入れられ、日本人学生との密接な交流を促進できる「国際学生寮」の設置は、今後も増えていくことが予想される。

こういった学生寮をめぐる動きは、受験生にとっても「新たな大学選びの基準」になりそうで、学生寮の質が問われる時代に入ってきたともいえそうだ。

なお、大学別の学生寮の設置状況は、螢雪時代 8 月臨時増刊「全国 大学内容案内号」のほか、旺文社進学情報サイト「大学受験 パスナビ」でも、個々の大学情報ページ（大学トップ）内の特色コーナーでご確認いただける。

・「大学受験 パスナビ」　https://passnavi.evidus.com/

(c)2016 旺文社 教育情報センター